

痛快山歩き

金谷 透さん

4年前、スイスのモンブランに登った。山の道連れは重度の知的障害を持つ瀧沢良雄さんだ。山岳部に所属した高校を卒業後は、単独行はかりだった金谷さんにとって、久々の同行者でもあった。

「アルプスの少女ハイジ」の大ファン。少年少女世界文学全集を何度も読み、ビデオを繰り返し見た。セリフから場面まですべて脳裏に焼き付け、モンブラン登頂後、ハイジの住むマイエンフェルトの町に立ち寄った。夢にまで見た町で、瀧沢さんは金谷さんの知らない世界をいろいろと教えてくれたとい

一人よりも君と登ろう

金谷さんは12年前、知的障害者の授産ハム工場赤城屋を設立した。そこで働く瀧沢さんを、初めて連れ出したのが登山だった。「彼には小と大の目標が必要だった。小さいのが月1度の山歩き、大きな目標がモンブランだったんです」



の中の鉄道網で、行く先をいつも丹念に確認する。山には精神的ストレスの起因がないのか、山中のパンニックは一度も起きていない。昨年、障害者と一般募集の健常者の8人で台湾の玉山にも登り「互いに打ち解け、何とも気持ちいい登山になった」と成功を喜ぶ。

各県視して乗しめることも分かってきた

と金谷さん。季節はずれの単独行山が好きだった。気が持たないが内省するののがよかった。でも同行者がいると山を

4月に富岡市に社会福祉法人上州水士舎を開設したばかり。そこでは知的障害者がハムやソーセージを作り、ブルーベリーを栽培する。今後は「ほかの仲間にも呼びかけ、山のサークルに発展させたい」

台湾の中央にある玉山頂上で、左端が金谷さん

「たんです」と山の魅力は無限大だ。(相田 洋子) 透(かなや・とむら) 1947年(昭22)9月25日、佐賀生まれの52歳。太田高卒業後、法政大へ進む。在学中からアファニスタン大使館に勤務。卒業後、スウェーデンのストックホルム大学で国際開発学を学ぶ。帰国後は良心の囚人の釈放運動を行う「アムネスティ・インターナショナル」に勤務。退社後、群馬へ。妻と長女は鎌倉在住。